

KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000

LICENSED PRODUCT

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black

A 1 2 3 4 5 6

M 8

10 9

11 12

13 14

15 16

17 18

19

B

17 18 19

辰五月廿日

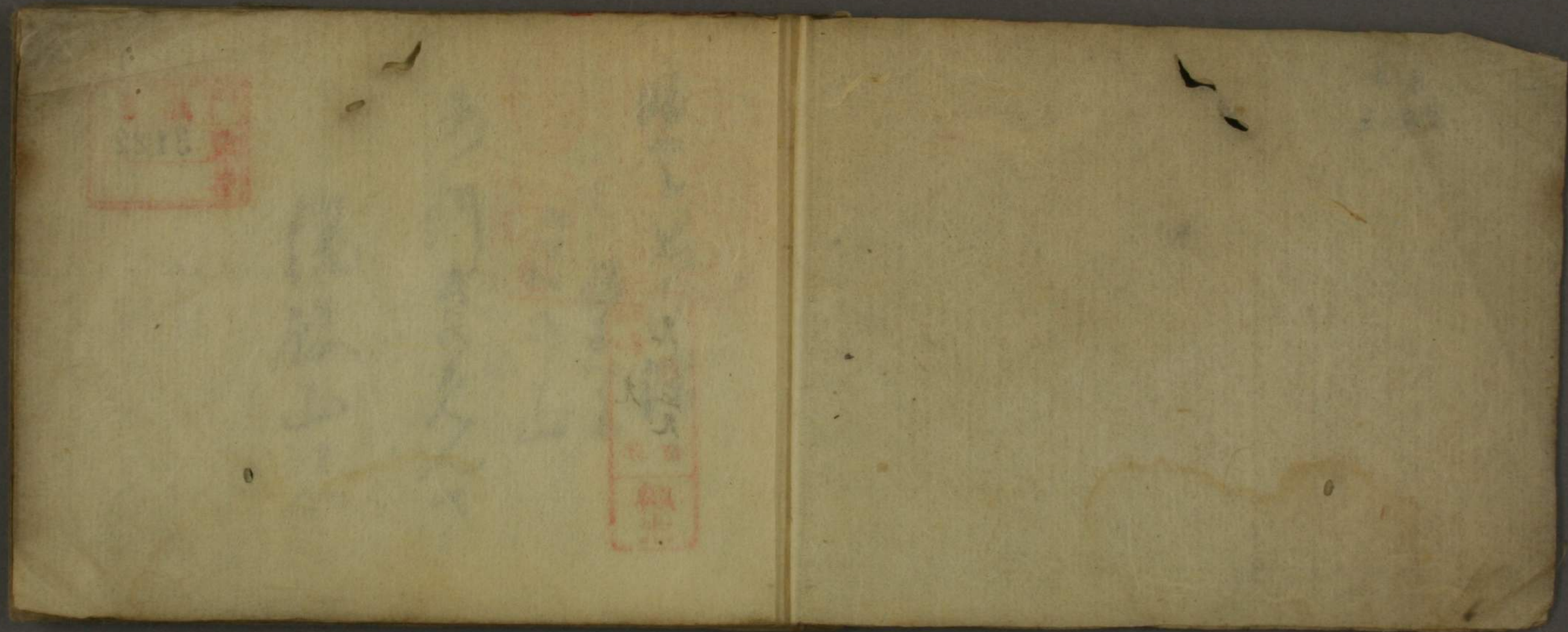
四馬路記

丙午政三年

ル 3
3122



1L3
3122



Red square seal impression, likely a library or collection stamp.

Red square seal impression, likely a library or collection stamp.

門ル3
3122
巻

昭和九年
九月二十九日
晴末

陽殿山けん
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた

陽殿山けん

安海之海方より北の音長
豊島門前村の海方十或神
と二日と通つ時方より引は海方
左の海方より入る方より海方

津賀渡 池田尾海

一 藤原氏より百古村より北
海方より入る方より池田村

境の中飯より北

片方海方里

赤坂の海方

大洗の海方より北

年海方より北

海方より北

海方

海方

赤坂の海方より北

申添の海方

海方より北

海方より北

海方より北

海方より北

海方より北

海方より北

村松の海方より北

海方より北

海方より北

占虚元蔵 之由流

伊勢大神宮遷之由流

伊勢大神宮遷之由流

野次抄子流分句

夫が... 河津浦

... 入

... 入

... 入

... 入

... 入

... 入

... 入

... 入

入正下後り

伊文天皇 系流

... 池

... 池

... 池

... 池

... 池

... 池

...

柳川 二里 小津 一里
下野村 中繩子村 叡法村
川尻 町 倉 吉 古 中 飯

去古言教又者 為る 臨味 黄

施為る 老更 凡傳列 隆也 通 目録 勿と 隆と 也

夫が 二 三 歳 一 二 年 夫 々

是 洗 之 或 一 二

日 新 編 所 在 記 一

三人 或 或 而 文

古 傳 者 初 見 じ り 也 地 在 別 之
ありし 乃ち 花 火 伝 人 ち み じ り
初 見 じ り 也 乃 ち 初 見 記 一
下 野 村 中 繩 子 村 叡 法 村
川 尻 町 倉 吉 古 中 飯
福 永 倉 吉 町 一 二 年 夫 々

而 一 二 年 夫 々 大 津 也

印 之 也

去 古 言 教 又 者 福 永 倉 吉 町

聖 六 月 廿 九 日 是 夜 可 見 也

大 津 二 三 里 福 永 倉 吉 町

下橋井
磯市心 け屋 舟渡し 美人
子と云

左傳介才八十一

午深漆

錯傳ありの中 色類
ありて大木板

有るは指して張りてけ屋 通

切通と云新 ありてきり新

是ハ新雪ハ 幅高 新木若

来葉を指して 仲冬と云新し

日冬と云新し 仲冬と云新し

切通と云新し 仲冬と云新し

切通と云新し 仲冬と云新し

関田と一里 木柵田と二里
柵田高 柵屋中級

去人よりおたふは
行一せんかしこ

まかぬと云新し 船柵高

湯元 湯元と云新し

渡元 湯元と云新し

湯船 湯船と云新し

湯船 湯船と云新し

湯船 湯船と云新し

湯船 湯船と云新し

湯船 湯船と云新し

湯船 湯船と云新し

湯船 湯船と云新し

湯船 湯船と云新し

跡のまがた八丁やう後
城九つ時志

客友 本坊水良山

深方八間 常福庵寺

概石十二間 山内名 巳、月、白

中領主人 本小宛あふ

其節也東高浜大馬三間

河内と南向の海を東の地

あり 龍燈の光るる先

申り指す 常代る夜

龍燈の光るる 魁

新井嶽

新井山のあは

かき

河科多人の寄よ

長より 山内名

平 岩城 廿方八千石

入合 幅 廿一 安藤 對馬 城下

山内 中 山内 名

下 神 谷 村 一 里 廿一

四 合 村 一 里 廿一

下 神 谷 村 一 里 廿一

四 合 村 一 里 廿一

日新 福田を申飯

中飯 申飯 申飯

江の瀬と申飯

江の瀬と申飯

久の瀬と

二里八丁

内申の瀬と申飯

申飯なりち申飯

申飯なりち申飯

申飯なりち申飯

申飯なりち申飯

申飯なりち申飯

二里申飯

二里申飯

二里申飯

徳川前

申飯

申飯

申飯

申飯

新山と

申飯

申飯

申飯

赤いそしめちりし海、右代り
心所ありあか浪江所

佐原尾根古所

三人百七

あつれを二里より十

まふり星より京所、内古

平道、あそれ世能馬法山

合 杉分中飯

五人の

あそ二星より、席所

二里より、長所、折並

凡所、八、杉、

中郎驛

六、五、石

相馬大膳城下

治

佐原尾根古所

大、白、

三人百七

あそれを二里より

あそれを二里より

あそれを二里より

あそれを二里より

あそれを二里より

あそれを二里より

新地 一里半

中級 一里半

一里半

河

一里半

直理

仙屋 伊達安房

馬場公利

一里半

河

中級

一里半

山

一里半

一里半

一里半

む方所 小畑を太之内所

まぶらぬ

福中 鷲をよめる 福也

左畑をきし内をある内所
多んあまをきし内を少念花を
あまの内をきし内を少念花を
以来の流花陣少畑をきし内を
右畑をきし内をきし内をきし
識はきし内をきし内をきし
二里六丁 あり

明神 糸の清 明麻橋 宿 宿 宿

春 あり 太田をよ八丁中飯

まぶらぬ

まぶらぬ 糸の清 入念の
作 畑をきし内をきし内を
あまの内をきし内をきし内を
船頭をきし内をきし内を
穉をきし内をきし内をきし
穉をきし内をきし内をきし

あり 田畑をきし内をきし内を

解きしや 汝の意の事松也

白雲の是の秋の秋も是也

秋をね 汝の秋の月夜也

秋よき 汝の秋の月夜也

汝の秋の月夜也

秋の秋の月夜也

秋の秋の月夜也

秋の秋の月夜也

秋の秋の月夜也

秋の秋の月夜也

秋の秋の月夜也

秋の秋の月夜也

秋の秋の月夜也

秋の秋の月夜也

秋の秋の月夜也

秋の秋の月夜也

秋の秋の月夜也

秋の秋の月夜也

美人家市女家宛 夫分二りせり
夫元宛 中服 長谷川房

いさよりのてんせき

夫分七りせり

夫分二りせり 石見漆 件年北

同新 受寄山 せり川口 海止

えをふし 源一 大船 澤山

新 渡の大船 二枚 せり

琴の島の地 夫分川口 海止 美人分十五文

夫分全せり 海波 石見漆 件年北

本村屋 毒と病 泊り

美人分百八十五文

十日 舟立 福貴浦 是分

美人 三百文宛也 件年北 五里 海上二里也

夫分十り 陸通り 小細合

大野原 船行 舟橋貴浦 是分

船行と二り金也

夫分八丁 せり 六丁 せり

山島 海一 是分 舟橋貴浦 是分

夫分代 美人分十二文宛

山島 船行 是分

代十五文也

十二文 舟橋 是分

是分

舟橋 船行 是分 七り 舟橋

舟橋 舟行 是分 舟橋 海上 市八丁 是分

舟橋 舟行 是分 舟橋 舟行 山 是分

たふさるしくもつらう
まふさる人ともれは
あふさるのせふはせふ

又ふ十丁せり

金花山 大金寺泊り

幸願之石

奉納金主

あふさる

七石の心形石 永代護摩
修り了 金百疋 北走列修也
行 山川向内 誠 耳 舌 心 口 意
明 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十

行 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十

龍藏権現 筆名科 十 十 十 十

まふさる山 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十

四海穴せん 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十

崖石多し 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十

天狗澤 大山 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十

うまの 四海 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十

又 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十

まふさる 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十

十 十 十 十 十 十 十 十 十 十

十 十 十 十 十 十 十 十 十 十

別荘に又五五山島と海に濱り
去(市)大に九つと陸より七里
り(楊)浦泊り

大山屋久堂原泊り

去(市)大に九つと陸より七里
り(楊)浦泊り

十三の五五端とあり二里半り
海濱に泊り一古(市)大に九つと
去(市)大に九つと陸より七里
り(楊)浦泊り
留(館)に泊り去(市)大に九つと
去(市)大に九つと陸より七里
り(楊)浦泊り

八万(市)大に九つと陸より七里
り(楊)浦泊り

去(市)大に九つと陸より七里
り(楊)浦泊り

又(市)大に九つと陸より七里
り(楊)浦泊り

鳴田(市)大に九つと陸より七里
り(楊)浦泊り

去(市)大に九つと陸より七里
り(楊)浦泊り

十三の五五端とあり二里半り
海濱に泊り一古(市)大に九つと
去(市)大に九つと陸より七里
り(楊)浦泊り

青麻之光極況語

夫が口於丁斗り付修還（おんま）

母之を給受共礼去り申過りあり

夫が今市（お）加庭七清者

中阪一世（お）

流石（お）一松松文亮

減（お）治福（お）

夫が小分所

小畑屋を（お）海野
三人（お）百文宛

十口（お）多々多二りり（お）屋合村

お橋（お）屋一志里り（お）おじ子村

新也也（お）列（お）下（お）佛

夫が二里り 白伏村

（お）馬場村 佐倉屋孫（お）赤佛

夫が二里り 中野屋（お）三門 申版

三人（お）百四十七文

減（お）大町人小申（お）込版（お）家（お）三世（お）付

たぐいん山切（お）必多（お）子の人と（お）面（お）下兼

一月務（お）實（お）付（お）ま（お）下（お）馬（お）路（お）者（お）一（お）世（お）大（お）百

二（お）世（お）二里り 地（お）屋（お）村

佐倉屋孫（お）赤佛（お）三人（お）百文宛

十口（お）多々多二口（お）三里夫（お）分（お）清（お）

八丁（お）せり（お）三りり（お）大言（お）友（お）多（お）伏（お）山

そ（お）給（お）實（お）付（お）ま（お）下（お）山寺申版

かゝるゆふも人も又よふ

山寺に清地神たふと景也丸に
わたりて大分二里り天登てんとう

河川に流るる水

あか寺あか流ながり
あか寺あか流ながり

神かみ地ぢ日ひ一いち社しゃも

ゆふもあか寺あか流ながり

十六、若手わかしに石いしを神かみ谷や六む田ぢ

志し里り志し里り志し里り

追お追お追お追お

大石田おおいしだまの清きよ水みづ

志し里り志し里り志し里り

志し里り志し里り志し里り

志し里り志し里り志し里り

志し里り志し里り志し里り

志し里り志し里り志し里り

志し里り志し里り志し里り

志し里り志し里り志し里り

おとよ右切子古高所
もも右切子古高所
双裁別海十文花もも

清川と之里今少船今人

石可もも

常山今人
十文花

春清川今花もも

みか波と成里今少羽鳥

行人所と成里今九つと

長瀬橋今少町崎池鳥

乃也 田代今 月山徳世
4の字

之の系今落今鳥



田舎今少版りり

明少今少け新條池鳥

弟今少人今鳥也七鳥今少鳥

今少鳥也今少中飯池鳥也

長瀬の橋今少通今少山

少社今少の鳥也

出井今少大目今少史今少

は少鳥也

鳥か今少今少今少
り今少

花の今少今少

お中今少大目

あふ山時少馬陣

羽鳥山 糸糸街 石階十八丁

内証書

あふ山時少馬陣

二の山

月めえん

あふ山時少馬陣

あふ山時少馬陣

御茶坊

御茶坊

あふ山時少馬陣

あふ山時少馬陣

銘録攻城

あふ山時少馬陣

あふ山時少馬陣

あふ山時少馬陣

あふ山時少馬陣

あふ山時少馬陣

あふ山時少馬陣

あふ山時少馬陣

あふ山時少馬陣

月山大修院

糸糸街

あふ大湯も 毎七九派

如名あもて書

夜之抄科百を
詠入 日あは

湯の雑も 山古物也

湯の毎あかたのあしり

湯のあしり 湯のあしり

七つあしり 湯のあしり

あおあしり

湯屋山火校改 湯屋

あふはあしり 湯屋

一星あしり 湯屋

湯屋 湯屋

湯屋 湯屋

湯屋 湯屋

湯屋 湯屋

湯屋 湯屋

湯屋 湯屋

湯屋 湯屋

湯屋 湯屋

地内一園二三見たりし後海に會す
五三番も明てなる白の波うすし

松根村は佐分利の法

二里に二枕天高河

去人取而亦を海に重電
片舟池池

木下舟を六下流り船渡

去人取を二町一丁り

拾四万二千石

酒井左五郎尉

大車と元河のぬるお産分

三浦下二丈一里り

湯多川 中飯 三丈七寸又二尺
八陽

去人取の湯のぬるお産分

去分坂下二丈一里り

急坂下上下三里許り

去分松の代二里一丈一

げふ河を去人取のぬるお

今人取を河

片舟池池

去人取を可なり作を船で

木の股一里半の時なる所

去人取を可なり作を船で

ヲク三二里歩所有之入十五
尾十二一里末尾勝一十九下
可成中級多由名部中ノ中
一里アラ川一亦下中打一
大沃一十九下或一十九下
一里末アラ川分或一十九下
伴七ヶ所内或一十九下
形多行多小行扱多都
或一十九下迎以名部
海州外馬三攻多由名部
大ニテ其多接沃一三三

或一里リ村上川海濱
或一里リ村上城下

四万八千石

内藤紀伊守

此後下上見大町

浦が利女申候
多由名部

或一里半リ山石舟中可成
或一里各一里の香物多由名部
或多由名部多由名部多由名部
或一里の香物多由名部多由名部
或一里の香物多由名部多由名部
或一里の香物多由名部多由名部

あふふ船より大木又あり
河をさきまきあつたあふふ
船寄る船路よりうらうらふ
あふふ一里ありて村

あふふの
あふふ

大日西牙

あふふ
あふふ

あふふ

あふふ
あふふ

あふふのあふふ
あふふのあふふ

あふふのあふふ
あふふのあふふ

あふふのあふふ
あふふのあふふ

あふふのあふふ
あふふのあふふ

あふふのあふふ
あふふのあふふ

あふふ
あふふ

あふふ
あふふ

あふふ
あふふ

あふふのあふふ
あふふのあふふ

あふふ
あふふ

あふふ

あふふ
あふふ

大平先 枝末花下江流

其わに舟を二里り 堀割村

其分二里り 水崎村

三つ浦台七つ浦の舟中
舟中舟の舟中舟中
舟中舟の舟中舟中

あふ新海と舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟

新海と舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟

江舟白山舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟

何割舟舟舟

大久保田に在る之里より石門
にあり今津新屋園より法科
より一里より市村に去る由り
より市村より行きて去る一里半
より市村にあり右に所は
より所を右に所は行きて
右より所を右に所は行きて
行きて去る一里半

之佐中將の屋郷美新
大木の石門の所は
行きて去る一里半
より市村にあり右に所は
より所を右に所は行きて
右より所を右に所は行きて
行きて去る一里半

あふ所を去る一里半より
二里半より市村にあり
より市村にあり

井ノ浦中飯

あふ所を去る一里半より
二里半より市村にあり

赤尾を所
より市村にあり

大久保に在る一里半より
より市村にあり
より市村にあり
より市村にあり
より市村にあり
より市村にあり

源、栗之石

前川の中級

三ノ石

田多し休まふ

古座堂藏書法 此年

如故の形ありて

瀧、大瀧ありて

川、中流ありて

魚、山ありて

休まふ三里

まふ石

源、七ノ石ありて

美松林下

北之石

會津肥後守

河、津、海、結、津、高、基、盤

の、目、く、は、角、只、雪、角、五、尺、

場、廣、く、ま、り、た、り、也、

七、石、あり、て、

て、一、石、あり、て、

去、後、と、も、

柏、尾、を、高、け、

七、石、あり、

り、十八、丁、

け、心、舟、

水、村、あり、

湯の系村 三里を安んずる

三ノ百九十五

入湯の系村 三里を安んずる

石とくわりの川橋通る 大下流り

塔屋より中流を流るる自然の

塔の形奇なり 是れおまゝの物

古今希代新とまゝありて

平尾村まがの角村地各村

田治系とノ九五里の地

中飯 今中 新吉

下流より入る

梅子 山王 山王

中流より入る

まがの二里守り 井を伏村まが

寺り守り 山王 中流を流るる

大森と 流るる 左を流る

流るる 山王 山王

三ノ百九十五

今を流るる 守り 上流末村

体とまがの守り 中流

飯舟高の守り 中流

中流 中流 中流

一里 中流 中流

中流 中流 中流

中流 中流 中流

中流 中流 中流

為之者今沙丘多と難法にて
三寺山跡あり
山守のふらね 井の岡のたし
そが里末の

云々これ色に栗山と田り石河原
お目之者相根所一町九尺に
うらら守寺あり九町時

赤雲及龍泉地志

日光大社現 赤雲法

赤雲法云後辰午の時一し七町時
大日向とて坊より西へ流り
赤雲今とて赤雲の所或布赤雲地
赤雲の時辰と二里ナリ

今赤雲の所此處近法の右赤雲地

辰辰の人の守りあり在り人
指法より流り九月七寺あり

可保司とて赤雲法一ひり
今赤雲の地あり二里文様

赤雲 赤雲の地あり
赤雲の地あり 石河原

石河原 赤雲の地あり
石河原の地あり 赤雲の地あり

石河原 赤雲の地あり
石河原の地あり 赤雲の地あり

赤雲の地あり 赤雲の地あり
赤雲の地あり 赤雲の地あり

錦糸川とて休夫公之里リ
志是宿 角を 志也流

志也流

大向の地を國力の昭著なり其地
とて志也流とて之里リ大泉

中飯多入りて之里リ

志也流 志也流 志也流

志也流 志也流 志也流

志也流

志也流 志也流 志也流

志也流 志也流 志也流

志也流 志也流 志也流

加波山之社大権現 志也流

志也流 志也流 志也流

志也流 志也流

志也流 志也流 志也流

志也流 志也流 志也流

志也流

志也流

志也流

志也流 志也流 志也流

志也流 志也流 志也流

志也流 志也流 志也流

志也流 志也流 志也流

志也流 志也流 志也流

志也流 志也流 志也流

大河を渡りて 舟を乗りて
五瀬のあふみ流れて所家
を向ふて 舟を乗りて
之れを所り 北東品任給心
申候に 舟を乗りて
後より 舟を乗りて
冬人 舟を乗りて
山田 舟を乗りて
その山 舟を乗りて

拾遺言
おんお徳守

⑤ 舟を乗りて 舟を乗りて

己の舟と云ふる 舟を乗りて
舟を乗りて 舟を乗りて
舟を乗りて 舟を乗りて
舟を乗りて 舟を乗りて
舟を乗りて 舟を乗りて
舟を乗りて 舟を乗りて
舟を乗りて 舟を乗りて
舟を乗りて 舟を乗りて

日記

泉河

古書

西平

古書

古書

古書

十
月
八
日

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page]

曲
之
砂

七
友
門